



くれ

995号
2024年12月17日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→

大きな谷が目立つ年

平均年収と中央値

令和5年度分民間給与実態調査で、平均給与は460万円となった。

民間の給与所得平均なだけに、一部の高所得者が平均を押し上げているとの指摘もある。

その為、中央値という指標も注目される。

中央値とは、年収の高い順又は低い順に並べた時に、丁度、中間となった人の所得である。

中央値は約400万円であった。

平均給与の9割弱が中央値の目安と言われている。

最低賃金

全国一律1,500円以

上の最低賃金が求められている。

最低賃金が広島県では10月上がったが、物価も上がっており、家庭の支出額は大きくなっている。

賃金額が上がる以上に物価が高くなれば、賃金が下がった事と同義であり、実質賃金の低下が課題となっている。

企業は内部留保や政治献金を優先し、賃上げは消極的だ。

控除引上げ

配偶者控除や扶養者控除の引き上げが国会で議論されている。

与党は引き上げに賛成しながらも、税金減収を警戒し、大幅な引き上げには

慎重だ。生活費や学費の補填として働く学生からは早期に実現してほしい問題である。

欲を言えばアルバイトせず、本業である学問や部活に専念できる環境が理想だが、そういった家庭は多くない。

子供がいる家庭環境では、扶養控除内と決めて働く人もおり、控除の引き上げで、不足する労働力確保に繋がるかが注目される。

企業献金

企業活動の一環として認められている企業献金廃止は与党が慎重な姿勢を示している。

石破総理は、企業献金は、企業が行う表現の自由と述べた。

献金に関して、政治資金規正法に沿った記載や使用用途の公開で乗り切りたい所だろうが、裏金疑惑など、議員が法を遵守しているとは言いがたい状況では言い訳にしか聞こえない。

企業献金は与党である自民党の金額が突出しており、党として収入源を確保したいと思惑が見える。

しかし、少数与党として、野党の協力を得る必要があり、これまで以上に難しい調整が必要となる。

師走時期の人員配置

今年も残り2週間を残すだけとなった。

お歳暮で配達が増える12月の時期になっても、減員は続いている。

上旬、中旬の節目で配達する荷物が増える見込みの日でさえ、人員を増やしての対応はなかった為、当日の業務量は多かった。

以前は荷物が多い予想日は、荷物補助という形式で、人員配置を行っていた。減員を行い、超勤ありきの勤務体制で業務を行う事は望ましくない。

超勤が続けば、交通事故等のトラブルが起り易くなる為、減員は早期に廃止するべきだ。

会社と現場、人員配置に対する認識がかけ離れば、離職を選ぶ社員が増え、人材不足に拍車がかかる。

今年の漢字

一文字ではないが、今年の漢字は「大谷」で決まりだろう。

ドジャーズに日本円換算で、1千億円超という条件で電撃移籍。

腕の治療で、投手との二刀流は見られなかったが、DH打者として、初の50150の記録を作った。

チームを優勝に導き、MVP選手に選ばれた。歴史に残る選手の活躍を私達は見ている。

同時に世界に目を向ければ、戦争は続いている。対立を続ける両者には、大きな谷があり、埋めるのは難しい。

こういった隔たりではなく、互いに手を取り合い共存共生できる世界でありたい。

今後の予定

- 1月 1日(水) 6:00~
元旦ビラ配布
呉局前
- 1月 7日(火) 17:00~
第5回呉支部執行委員会
支部事務所
- 1月11日(土)
第6回地本執行委員会
第13回地方委員会
地本旗開き

次号は 1月 1日 予定